

関連 1 2 学会承認 頸動脈ステント留置術実施基準

【適応】

高度頸動脈狭窄症

【CAS 実施施設基準】

設備機器：手術室または血管撮影室に適切な血管撮影装置が常設されていること

手術実績：血管内治療を年間 20 例以上施行していること

脳卒中治療医〔註 1〕の協力：常時、脳卒中治療医の迅速な対応が得られること

循環器医の協力：循環器科の医師の迅速な対応が得られること

【実施医基準】

学会資格：下記のいずれかの資格を有すること

日本心血管インターベンション学会 (JSIC) 認定医

日本心血管カテーテル治療学会 (JACCT) 認定医

日本脳神経血管内治療学会 (JSNET) 専門医

日本インターベンショナルラジオロジー (IVR) 学会 (JSIR) 専門医

日本血管外科学会が策定するカテーテル治療専門医

基礎経験：選択的頸動脈撮影を含む脳血管造影を 30 症例以上経験していること

かつ下記の 3 つのいずれかに該当すること

頸動脈ステント留置術（以下 CAS）を、10 件以上、術者または助手として経験していること

冠動脈ステント留置術を、200 例以上、術者として経験していること

末梢血管ステント留置術を、50 例以上、術者または助手として経験していること

研修義務：使用するステントシステムについての研修プログラム〔註 2〕を受講していること

使用経験：使用するステントシステムについて、指導医のもとに術者として 2 例の CAS に成功していること

【指導医基準】

学会資格：実施医に準じる

施行実績：頸動脈ステント留置術 (CAS) を術者として 30 件以上経験していること

研修義務：使用するステントについての研修プログラムを受講していること

使用経験：術者として指導の対象となるステントシステムを 5 件以上経験していること

【付帯事項】

適応判定：最初の 10 例は、指導医の助言を受けること

調査体制：市販後調査 (PMS) に協力すること

〔註 1〕 脳卒中治療医とは、脳卒中の治療経験豊富な、日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医のことを言う

〔註 2〕資料（実施基準教育プログラム）参照

附則：この実施基準は市販後調査の結果をもとに 3 年毎に見直す。

この制度発足時の指導医は、関連各学会から推薦された、十分な CAS 経験を有し、所定の訓練を経たものを選定する

関連 12 学会 (50 音順)

日本インターベンショナルラジオロジー(IVR)学会 (JSIR)
日本頸部脳血管治療学会 (JASTNEC)
日本血管外科学会 (JSVS)
日本血管内治療学会 (JSEI)
日本循環器学会 (JCS)
日本神経学会 (SNJ)
日本心血管インターベンション学会 (JSIC)
日本心血管カテーテル治療学会 (JACCT)
日本脳神経外科学会 (JNS)
日本脳神経血管内治療学会 (JSNET)
日本脳卒中学会 (JSS)
日本脈管学会 (JCA)

実施基準教育プログラム

CAS 術者経験	CAS30 例以上	CAS10 例以上	CAS10 例未満
オンライン座学	必須	必須	必須
デバイストレーニング	必須	必須	必須
Simulator	必須(3 例)	必須(6 例)	必須(6 例)
症例見学 at REC 2 例実際症例の見学 4 例ビデオ学習	希望時	希望時	必須
指導医とともに 2 例の CAS を術者として経験	必須	必須	必須
血管内治療スタッフの教育	必須	必須	必須

REC: Regional Education Center